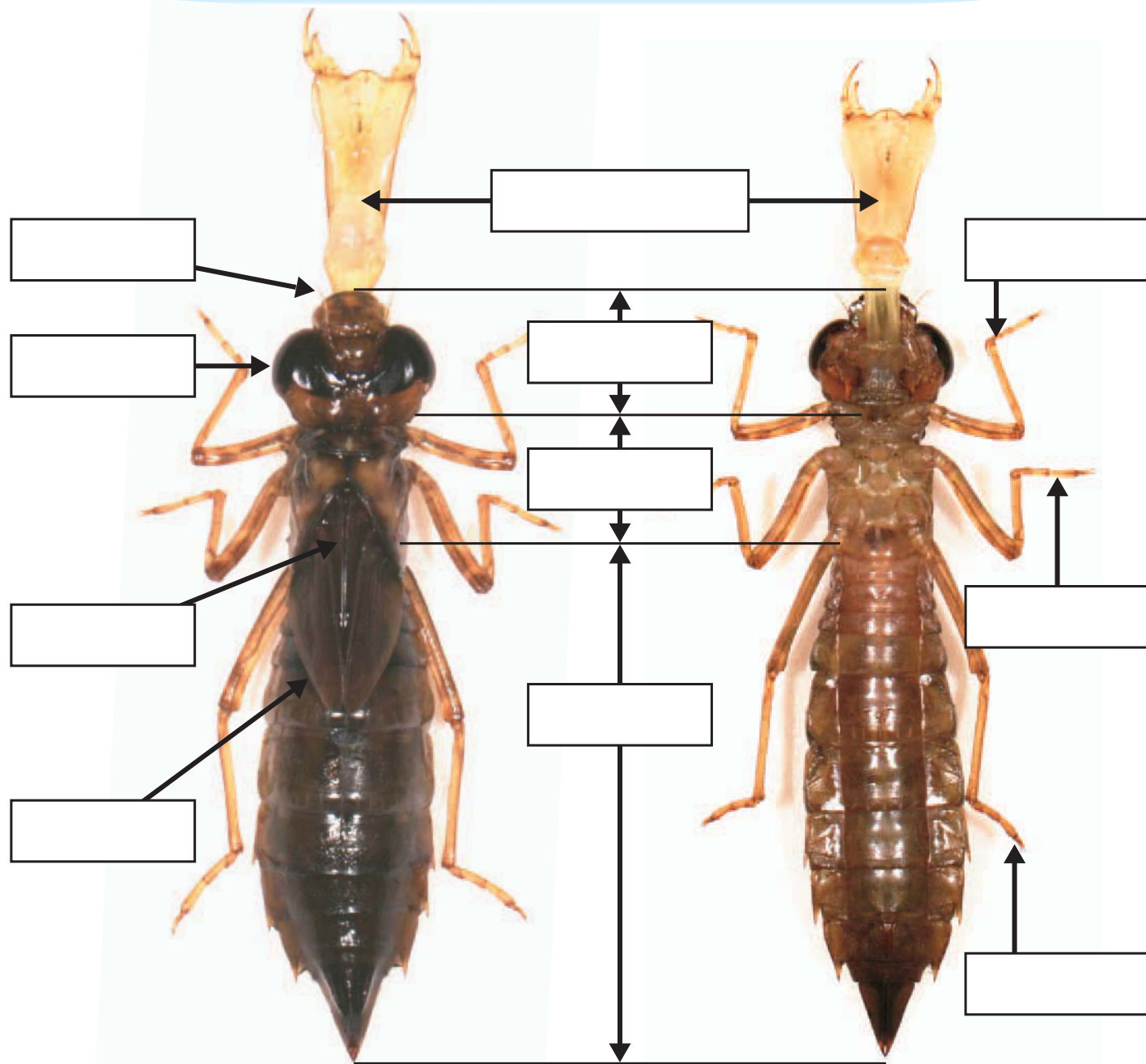


ヤゴの体のつくりとくらし

ヤゴはトンボのよう虫です。小さな水生生物をつかまえて食べることから、水中のライオンとも呼ばれます。ため池や水田だけでなく、ときには学校のプールでも見かけます。ヤゴは、よう虫なのに翅がある！「びよ～ん」とつき出る下くちびるもある！ヤゴの体のつくりには、不思議がいっぱいつまっています。

●観察日時：
●観察場所：
●天気：
●気温：

ヤゴの体の各部分の名前を、□の中に書こう。



水生植物が多いため池には、ヤンマの仲間、シオカラトンボの仲間、イトトンボの仲間など、たくさんのヤゴがすんでいます。そしてヤゴの体のつくりは、細長かったり、平たかったりと、仲間ごとに大きな違いがあります。同じ池でくらし、同じ日時に採集されたヤゴなのに、なぜ体のつくりに大きな違いがあるのでしょうか？

できるだけたくさんのヤゴをつかまえ、体のつくりの違いを見つけ、その理由を考えてみよう。

同じ池でくらししているのに…
どうしてかたちがこんなに違うの？

水中での体の動きや、移動のしかたを観察して、記録しよう。



●ヤンマの仲間：

●シオカラトンボの仲間：

●イトトンボの仲間：

仲間によって体の形が違う理由を考えよう。